

製品名: リン酸化 p107 (Thr369) ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab00840

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% アジ化ナトリウムを含む PBS 液 (pH 7.3)。
精製	アフィニティークロマトグラフィー

応用

希釈倍率	IHC 1:50-1:100, ELISA 1:5000-1:20000
分子量	-

抗原情報

遺伝子名	RBL1
別名	PRB1; p107; CP107
遺伝子 ID	5933
SwissProt ID	P28749
免疫原	抗血清は、Thr369 のリン酸化部位周辺のヒト RBL1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 335-384

背景

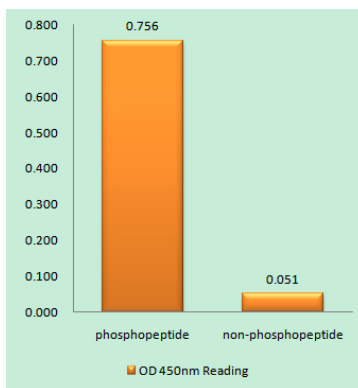
細胞分裂開始の重要な制御因子。クロマチン全体の構造、特にヒストンのメチル化を安定化させることで恒常的ヘテロクロマチンの

構造を維持することにより、ヘテロクロマチン形成に直接関与する。ヒストンメチルトランスフェラーゼ KMT5B および KMT5C をリクルートして標的とし、エピジェネティックな転写抑制を引き起こす。ヒストン H4 の Lys-20 トリメチル化を制御する。クロマチン修飾酵素をプロモーターにリクルートすることで、転写抑制因子として機能すると考えられる。E2F を介したトランス活性化の強力な阻害剤。アデノウイルス E1A および SV40 ラージ T 抗原と複合体を形成する。T および E1A がポケット結合を巡って競合する特定の細胞タンパク質に結合し、機能的に調節する可能性がある。腫瘍抑制因子として機能する可能性がある。

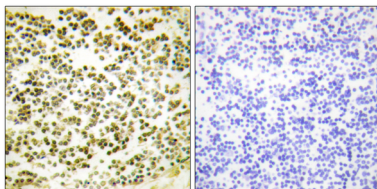
研究分野

細胞生物学

画像データ



リン酸化ペプチド（リン酸化左）および非リン酸化ペプチド（リン酸化右）に対する酵素免疫測定（リン酸化 ELISA）、RBL1（リン酸化 Thr36 抗体）使用



リン酸化 p107 (Thr369) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト扁桃腺の免疫組織化学分析。右側はブロッキングペプチドを添加したサンプル。抗原賦活化には、高圧高温クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を使用した。